



加治丘陵だより

平成27年10月5日

第23号

NPO法人
加治丘陵山林管理グループ

E-mail iruma@npo-kajikyuryo.net URL http://npokajihozen.seesa.net/

第13回通常総会開催

平成27年6月20日(土) 於 市民会館

今回は始めて市民会館の大会議室で開催された。司会の山西素直副理事長により出席会員43名、委任状提出会員100名計143名で総会成立を表明。大山博理事長の挨拶に続いて、ご来賓の田中龍夫入間市長・平山五郎市議会議長・山崎利明市環境経済部長・大塚拓衆議院議員・斎藤正明、杉島理一郎両県議会議員・木下博駿河台大学客員教授・鈴木俊太郎埼玉りそな銀行入間支店長が紹介された。

次に議長に小林五郎会員を指名、大山理事長の平成26年度の事業報告と当グループの現況についての説明があり、続いて議事に入った。第1号から4号までの活動計算書・貸借対照表・財産目録などの議案について宮坂右二理事・会計班長より報告があり、清水徳三監事より監査報告がなされた。また平成27年度の計画と予算に関する5号・6号議案について上程され、滞りなく満場一致で承認された。

その後、田中市長ほか各来賓のご挨拶を賜り、引き続き講演会に入った。



挨拶する大山理事長



諸議案を報告する宮坂会計班長

講演会の開催

講師 入間ケーブルテレビ(株) 代表取締役社長 荻野喜美雄様

〔プロフィール〕昭和19年生れ、市内宮寺にお住まい。昭和62年入間ケーブルテレビ(株)設立に携わり、平成9年同社長に就任、以来地元メディアの発展拡充に尽力され、数々の事業展開を成し遂げられております。現在、政財界に関わる役職は実に20余りと数しれず、そのエネルギッシュな行動力は留まるところを知りません。

〔テーマ〕「地元メディアからのメッセージ」

〔要旨〕近年のIT(情報技術)の進歩は10年一昔どころか、半年一昔といった状況で、54名の社員が一丸となって技術革新に取り組み、地元市民の皆さまに役立つよう日夜努力している。

現在、42,000世帯と契約しているが、業界最先端の光ファイバーを構築し、テレビとネット、電話やスマホに対する地元ブロードバンドとしての役割を果たしている。FM茶笛も災害時緊急放送という目的もあるが、最近は深夜放送が早起きの高齢者に好評。

また、パソコンやスマホなどの使用方法につき随時説明会を開いたり、個人の自宅に出向いたりして説明している。これは高機能化しているテレビとともに、特に問合せの多い高齢者には地元だけに気軽に応じており、地域との絆を深めている。



熱の入った荻野社長の講演

懇親会の開催

於 市民会館

総会・講演会終了後、引き続き開催され、ご来賓、会員あわせて58名の会員が参加。宮寺会計事務所長・宮寺成人様の乾杯ご発声により開始された。

例によって家元の櫻川ぴん助(早乙女)の音頭で、鈴木・大和田・松田の4女性会員による江戸芸「かっぱれ」、吾妻流名取・吾妻寿輝先生の日本舞踊、成田竜晨会々長の民謡なども披露され、それぞれ和やかな懇談が展開された。



NPO法人西川木楽会は、「森づくりと地域づくりの活動を通して、森林・林業への理解を深め、豊かな森と人の環境を次世代へ引き継ぐこと」を目的に楽しみながら森づくり・人づくり・地域づくりに取り組んでいます。

当会は1991年に全国で24カ所に設立した林業青年会議所が始まりで、西川林業地の川上から川下の関係者（山主・製材・設計・森林組合・行政の計21名）が、山の荒廃と林業の衰退の原因と対策について3年間話し合い、山と林業の再生は森づくりと木の活用にあることを確認しました。そして1994年9月に旧南川小学校で設立総会が行われ、西川木楽会として166名の会員でスタートしました。当初の活動は下刈り・枝打ち体験や林業視察、住宅見学、地域フォーラム、木工教室、広報誌発行などでした。

1997年4月に、吾野の1haの山を無償で30年間使用する「山林使用協定」を締結し、山桜・樺・山栗などの広葉樹を中心とした“ユガテの森”づくりがスタート。2002年には県植樹祭で知事表彰を受けました。2003年11月のNPO取得が節目となり、簡易製材機を始め、山と木工の仕事をカバーできる機材やログ倉庫・テラス・竹炭窯・燻製窯・軽トラックが整備され、森の活用としてエコツアーやイベントを通して都市住民との交流活動に幅が広がりました。

現在の会員は73名で、活動はユガテのフィールドで年始の山開きに始まり、毎月第4土曜日の森づくり部会、毎週火曜日の木工部会、不定期ながら炭焼き・キノコ栽培などを経て年末の忘年会が恒例です。またエコツアーや各種イベントへの参加、地場産業祭・他団体との交流を実施し、隔月の理事会、3か月予定表、会報「ユガテの森から」で会員間の情報連絡を図っています。

現在の会員は、高齢化・活動に参加する会員の固定化・活動のマンネリ化の課題を抱えていますが、今年は原点に戻り、「森づくり」と「木の活用」を結ぶ“木の家”の活動を再開することで、山の持続的な循環と安全・安心な暮らしのできる住環境を取り戻したいと考えています。

なお、当会は個人年会費3,000円と助成金で運営しており、公共関係からの補助はありません。従って会員は殆ど無償ボランティアです。



名栗川の筏流し体験

平成27年度作業状況報告

副理事長・作業班長 菱川浩次

上半期実績 下草刈り：68,316㎡(含メモリアル15,200㎡)、伐採：259本、皮むき：430本、木道：8m2本、園名柱：1本

今期、特記すべきは展望台南斜面のヒノキの伐採であった。直径20～40cm、長さ3mの大木319本を10～40mの下方から急斜面を上る平地に人力で引上げるといふ重労働であった。さらにこれを皮むきし、軽トラで運搬して山仕事の広場の保管場所に収納した。この作業は全員の一致協力により達成されたもので、無事終了することができた。

下半期予定 下草刈り33,000㎡+α、伐採50本前後及び自然災害の対応などが予定される。

11月には新規の場所12,000㎡が入る予定だが、ここは長年手を付けられていないので特に注意を要する。なお、この時期はスズメバチが攻撃的になるので、見つけ次第すぐに通報されたい。また、1～3月は例年通り作業はあまり多くない見込み。



人力による大木の引上げ



軽トラに積み込む



軽トラから収納場所へ

森林視察研修 明治神宮と代々木の杜

大型バスにより
9月6日(日) 38名参加

9時半ごろ現地に到着し、入口の大鳥居から南参道を通り、全国から集めたといわれる10万本の樹木、100年以上を経たニレやケヤキ・カシなどの巨木の杜を散策、非常に有意義な森林視察研修であった。その後、御本殿にて正式参拝し、神楽殿・宝物館などを拝観。神宮会館にて昼食をとりながら懇親会に入る。民謡などの余興もあったが、いつになく静かで和やかな懇談であった。

午後3時ごろ帰路に着く。



御本殿前にて

テレビ埼玉で当グループの活動状況放映

8月14日(金)17:30からの「ごごたま」なる番組で、去る3月に当グループが「第16回彩の国埼玉県環境大賞」の優秀賞を受賞した件に関連し、下草刈りの作業中やカブトムシとり大会を取材した状況が約10分間ほど放映された。オレンジ色のベストの会員が躍動する姿が映し出され、グループのPRに役立った。

グループ活動に参加して



会員No.430 中川 滋

山や溪流など自然が大好きな私にとって、加治丘陵の保全に携わる作業は、健康的でストレスの解消にもなります。刈払い機で下草を刈ったあとの達成感は、爽快さと充実感にあふれ、疲れもどこかへ飛んでいきます。

伐採するときは木たちへの感謝を忘れず、心の中で手を合わせています。そして森の息吹を浴びていると新陳代謝が活発になり、さらに免疫力が高められると言われてますが、当グループに参加させて貰って山仕事をするようになってからは、一切病気になるものになったことがありません。この加治丘陵という里山を守るため、体力と気力が続く限り力を注いで行くつもりです。また、各種のイベントでグループの仲間との飲食はとても楽しいひと時です。作業とあわせてお付き合いのほどよろしくお願いします。



会員No.441 久下 栄

私は、多摩川沿いの福生で生まれ育ちました。5年ほど前に友人から畑を借りて家庭菜園をやっています。有機農法に憧れて近くの公園で落ち葉を集め、自前の腐葉土を作ろうとして畑の隅に囲いを作り落ち葉を積み上げたが、なかなか腐ってくれません。友人に教えてもらい鶏糞を入れたり、水を撒いたりしてようやく腐葉土らしくなった。今ではこれを元肥として畑に入れていきます。

昨年の市民活動センターでの人材塾で当グループを知り、その山仕事の一日体験に参加し、早速入会しました。先輩の皆さんに里山の手入れを教えてもらいつつ「木が作ってくれた葉っぱは燃やすことなく、腐葉土として土に返したい」という自分の思いを実践していることに喜びを感じています。



会員No.444 朝倉 直明

今年3月まで加治丘陵里山巡視員を1年間していました。それまでは加治丘陵についてあまり知らず、巡視員をやってみてこの丘陵の自然の豊かさが分かり、1年でやめるのが残念で、みどりの課に聞いたところ、このグループを知り入会させていただきました。

私は若いころから山が好きで、現在も登山クラブに入っており、月1回の定例山行や毎週1回の自由山行に参加しています。当グループには4月から入会し、今までの“歩く”のみから山林作業を行ってみて、自然を管理することの大変さを改めて感じた次第です。全くの素人の私ですが、先輩諸氏のご指導をいただきながら少しでも山林管理のお役に立てればと思っています。

新入会員ご紹介

会員番号 氏名(敬称略) 8月末入会まで(現在の会員数178名)

446 松田 敬子 447 鈴木 洋明 448 松本 義明
449 尾崎フミコ 450 斎藤太嘉志

入会のお誘い

＝ 会員になって活動を支えて下さい。＝

- 我々はボランティアで活動しています。
- 178名の会員が汗を流して頑張っています。
- 年会費 正会員(個人) 2,000円
賛助会員(会社又は団体) 1口10,000円
- 加入連絡先 04-2932-4515 (大山 博)



2006年5月22日朝6時ごろでした。アメリカのイエローストーン国立公園（四国の約半分
の面積）で、野生オオカミ9頭がバイソンの群れ十数頭を逐次分離しながら、最後は子連れ
の母バイソンを孤立させ、ハンティングする場面に遭遇しました。双眼鏡で約2時間半、日
常的に繰り返すオオカミの狩りの様子と言ってしまうかもしれませんが、なんと冷静で組織
的でがまん強いのか！。

20歳代のころから、オオカミに関する文献や写真などの資料を集めて楽しんでいます、
一般的にオオカミに対するイメージは悪役であり、憎まれ、恐れられ、これほど誤解された
動物もめずらしいと思います。

人を襲うというイメージもありますが、アメリカでは、1600年代に白人が入植してから現在まで、300年以
上の間、人がオオカミに襲われた記録は一件もないとのこと。実際は、自ら戦うことをきらい、内気な
側面を持っている愛すべき動物です。オオカミはパック（群れ）と呼ばれるいくつもの高度に発達したグルー
プを作って生活しています。また、それぞれがきわだった個性を持っている点でも珍しい動物です。パック
の社会はこのような個性がそれなりに育ち得るような仕組みになっています。例えば、獲物を捕らえる点で
特に優れていたり、戦略の才能を発揮するなどです。

以上オオカミのイメージチェンジを狙って書いてみました。

なお、私の所属する一般社団法人・日本オオカミ協会では「日本ではシ
カ、カモシカ、イノシシの異常な増加（食害）による森林生態系の破壊が進
んでおり、この自然破壊を食い止めるには、狩猟圧（狩りにより増え過ぎ
を調整する）も必要ですが、食物連鎖の頂点に立つ捕食者オオカミの導入
が不可欠」と考えています。



イベント報告

- 第4回いるま環境フェア 6月14日(日) 入間市産業文化センター
38グループが参加、当グループも例年通りパネルに作業写真20枚、会員製作の「幸せを呼ぶフクロウ」や
小鳥の模型などを展示。特に伐採中の写真は注目を浴びてPR効果があった。
- カブトムシとり大会 7月11日(土) 子ども45人28家族参加
今年から近くに引越した新しい床だったが、子どもも大人も懸命に掘り返したが、多くの幼虫を入れたに
もかかわらずやはり不作だった。しかし、例年同様あらかじめ用意しておいたカブトムシを全員持ち帰っ
てもらったので、子どもたちは大喜びだった。
- 暑気払い(納涼花火の夕べ) 7月28日(火) 彩の森公園32名出席
猛暑の中の1日、ようやく涼しくなった夕刻より車座になって歓談、盛大な花火を満喫した。

お知らせ

- 入間万燈まつり 10月24日(土)・25日(日) 出店場所：茶の花通りNo.142（入間向陽高校裏・基地正門寄り）
「NPOの焼きイカ」と、もはやブランドとなった生イカの炭火焼きを販売します。家族友人お誘いしてご
来場の上、ぜひお買い上げ願います。
- アミーゴ秋まつり 10月11日(日)・12日(月・祝日) 実行委員：安部・他
グループのPRとともに安部勝己会員製作のフクロウ人形の組み立て指導・展示販売。
- 第15回楽山ゴルフ会 11月13日(金) 美里ロイヤルゴルフクラブ
多数の参加を待っています。詳細配布済みの案内書通り。 幹事：清水・向山・小林
- 忘年会 12月初旬予定

～編集後記～ 一昨年あたりから作業参加者が15～20人と増えてきているが、これは団塊の世代の人たちがほとんど。設立
当時から人は少なくなり、世代交代がほどよく進んでいると思われるが、その後の世代の人がどれだけ加入してくれるか
が問題。今回、西川木楽会の吉野勲代表理事に寄稿をお願いしたところ、快く引き受けていただき感謝します。同会でも高
齢化が問題とのことで、やはり10年後くらいを考えるとお互いに同じ悩みを抱えているようです。

(編集委員長 小林貞治郎)